

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	図書館における生涯学習推進事業			事業番号	11-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部	谷亀 博久	図書館・子ども科学館	倉橋 一夫	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	6	いつまでも学び生きがいがあるまちをつくる	
		施策	11	学習成果を生かせる生涯学習の推進	
予算事業名	図書館運営事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→		法令上の位置づけ	実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度	平成30年度	～	終了年度	令和4年度
関連法令等	図書館法(昭和二十五年四月三十日法律第百十八号)、文字・活字文化振興法(平成十七年七月二十九日法律第九十一号)、子どもの読書活動の推進に関する法律(平成十三年十二月十二日法律第百五十四号)				
国・県の計画等	かながわ読書のススメ～神奈川県子ども読書活動推進計画	計画期間	5年更新		
関連個別計画	第2期伊勢原市教育振興基本計画、第2次伊勢原市子ども読書活動推進指針	計画期間	平成30年度～令和4年度		
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	図書館では、職員と共に長年読書普及活動を行ってきたボランティアがありますが、その継続の支援を行うこと、また新しく読書啓発ボランティアを育成することは、社会教育施設として市民の生涯学習の機会を増やし、生きがいや活動の場を提供することにも繋がるため、積極的に実施する必要があります。				
目的 (何をどうしたいのか)	読書啓発ボランティアを育成・支援するとともに、ボランティア活動を通じた生涯学習や活動の場を提供することで、市民の読書活動の普及促進を図ります。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民及び図書館利用者				
事業内容 (手段、手法など)	読書普及事業等を図書館と共に行うボランティアの育成・支援を行うため、障がい者や高齢者サービス、学校支援サービス等の各ボランティア講座を実施し、市民にボランティア活動を通じた生涯学習の場の提供を行います。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	ボランティア育成・支援講座(障がい者サービス含む)	ボランティア講座開催(2回)	ボランティア講座開催(2回)	ボランティア講座開催(3回)	
目 標	【指標名】	年度			
	【現状値】	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	ボランティア人数(累計)	48名 (平成29年度)	53名	58名	63名



事業実施 (Do)

## 事業実施 (D○)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)	読書普及活動を一層推進するため、引き続き協力していただくボランティアへの支援の強化や新たなボランティアの育成、ボランティア同士の連携、交流の推進を図っていきます。				
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	<input checked="" type="checkbox"/> すべて直接実施 <input type="checkbox"/> 左記以外				
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b>		
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>		
	<input type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b>		
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>			
		<b>平成30年度</b>	<b>令和元年度</b>	<b>令和2年度</b>	
	ボランティア育成・支援講座(障がい者サービスマ含む)	ボランティア養成講座開催(2回)	ボランティア養成講座開催(2回)		
<b>実施した取組の内容</b>	視覚障がい者向けボランティア育成のための音声訳基礎講座を実施し、図書館でボランティア活動に参加する市民が増加したほか、読み聞かせ講座を実施し、初心者への養成とともに、現在図書館や学校、地域等で読み聞かせ活動を行う市民に対する研修の機会としました。				
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>【現状値】</b>	<b>年度</b>		
			<b>平成30年度</b>	<b>令和元年度</b>	<b>令和2年度</b>
	ボランティア人数(累計)	48名 (平成29年度)	64名	72名	

<b>コスト</b>	<b>年度</b>	<b>平成30年度 実績</b>				<b>令和元年度 実績</b>				<b>令和2年度 実績</b>				
	<b>事業費合計(a)</b>		3	千円	30	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
	<b>内訳</b>	国県支出金 ①	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
		地方債 ②	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
		その他特財 ③	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
		一般財源 (a)-①-②-③	3	千円	30	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
	<b>国県支出金の内容</b>													
	<b>その他特財の内容</b>	受益者負担	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無				<b>前回の改定時期</b>							
		その他												
	<b>人件費</b>	正規職員	0.02	人	170	千円	0.02	人	174	千円	0	人	0	千円
		その他の職員	0.02	人	50	千円	0.05	人	133	千円	0	人	0	千円
		人件費合計(b)	0.04	人	220	千円	0.07	人	307	千円	0	人	0	千円
	<b>トータルコスト(a)+(b)</b>		223	千円	337	千円	0	千円	0	千円	0	千円		
	<b>単位当たりコスト</b>	<b>対象数</b>	<b>定義</b>	講座受講者数(年間累計)		<b>単位</b>	講座受講者数(年間累計)		<b>単位</b>					
			<b>対象数</b>	45	人	110	人							
<b>総事業費/対象数</b>		4,956	円	3,064	円									

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左判断理由	計画どおり養成講座を開催し、図書館で活動するボランティア人数を増やすことができました。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	ボランティアの支援、育成については、近隣他市でも取り組みを進めています。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左判断理由	初心者向けボランティア講座とともに、現在図書館で活動するボランティアや学校や地域でボランティア活動を行う市民に対する研修講座を設けることで、図書館を核とした市民活動がさらに活発化しています。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左判断理由	十分なノウハウを持つ図書館ボランティアが、養成講座及び講座修了後において指導的役割を果たすとともに、職員負担の少ない事業を実施しました。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	ボランティアの更なる意欲向上やスキルアップに寄与するような研修等を実施することにより、各ボランティアが自主的に活動することが必要です。
令和2年度の取組方針		読書普及活動を一層推進するため、引き続き新たなボランティア育成のための講座や各ボランティアが活動を行うための研修講座を実施して、ボランティア活動を活性化します。		
所管部長による総評		読書啓発ボランティア団体との協働による事業を実施し、市民の読書活動の普及を図ることは、重要であると考えます。今後もボランティアの育成と支援を充実することで、さらなる事業の効率的な展開を図る必要があります。		